

兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部 第43回支部総会 **市民公開講演会**

生物はなぜ老い、そして死ぬのか

と き 10月21日(土) 14時開場 14時30分開演
と ころ 夙川公民館ホール 西宮市羽衣町1-39 (阪急「夙川」駅より南へ徒歩約3分)
講 師 東京大学定量生命科学研究所・教授 **小林 武彦** 先生

生物学で「わからないこと」があると、その進化について考えます。理由は、生物は物理現象や化学反応と違い、進化によってつくられたものだからです。「わからないこと」の大元を辿れば、それがどうして必要だったのかわかるのではないかという考え方です。生物はなぜ老いそして死ぬのか?という疑問についても同様です。全ての生物は必ず死ぬので、「死」の起源を遡ると生物が誕生する前の段階まで行き着いてしまいます。矛盾するように聞こえますが、「死」は生物の「誕生」から関わっていたようです。

一方「死」の前に訪れる「老い」については、ヒトと他の生きものではかなり違うので、こちらは「死」に比べるとかなり最近に現れた、しかもヒト特有のもののようなのです。

本講演では「老い」と「死」の存在意味について生物学的な視点から考えてみます。



■ 小林 武彦 先生 プロフィール

九州大学大学院修了(理学博士)、基礎生物学研究所、米国ロシュ分子生物学研究所(製薬企業)、米国国立衛生研究所、国立遺伝学研究所等を経て現職。日本学術会議会員。生物科学学会連合代表、日本遺伝学会会長などを歴任。静岡県三島市在住、伊豆の海、箱根の山、富士山をこよなく愛する。著書に「なぜヒトだけが老いるのか」(講談社現代新書)、「DNAの98%は謎」(講談社ブルーバックス)、「寿命はなぜ決まっているのか」(岩波ジュニア新書)、ベストセラー「生物はなぜ死ぬのか」(講談社現代新書)等がある。

主催 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部

お問い合わせは協会事務局 伊地知・山田まで

TEL: 078-393-1840 E-mail: idichi@doc-net.or.jp

後 援 西宮市、芦屋市、西宮市教育委員会、芦屋市教育委員会、神戸新聞社

総会議事は14時から同夙川公民館で行います。あわせてご参加ください。

「ながらスマホ」危険啓発キャンペーン

ながらスマホの危険を多くの人に

西宮・芦屋支部は特に高齢者や障がい者の歩行中の身の安全、車や自転車の事故を減少させることを目的に「ながらスマホ」(動いている状態、車や自転車運転・歩行中におけるスマホを操作する行為)の危険性を啓発する運動に取り組んでいる。オリジナルのポスターを作成し、賛同する支部役員のクリニックに掲示を依頼したほか、患者さんや、役員と繋がりのある学校関係者などに配布・掲示の依頼を行った。



地域の掲示板にも掲示を依頼

また事務局が西宮市内の公民館を訪問し、各公民館での活用を呼びかけた。

9月現在、市内自治会の一部の掲示板に貼っていただけただけのほか、「ながらスマホ」をしている人によって危険を感じたことのある患者さんなどに共感を得て協力いただいている。

30年前、喫煙はどこでもされていたが、現在では公共施設での禁煙は当たり前になっており、そのようなことをする人がいれば違和感を抱くまでになっている。このキャンペーンは同様に近い将来「スマホの閲覧・入力をするには、立ち止まって行う」という新しい常識が国民に共有され、多くの国民が「ながらスマホ」に違和感を抱く世の中になることを目的としている。

10月29日に開催される第32回日常診療経験交流会では、副支部長の伊賀幹二先生が分科会で支部での「ながらスマホ啓発キャンペーン」の取り組みを紹介する予定。

作成したオリジナルポスターの掲示にご協力いただける医療機関は協会事務局(078-393-1840)伊地知・山田までご連絡いただきたい。

(ポスターは左記2種類で、大きさはA3撥水とA4普通紙の2パターンを用意しています)



ポスターは2種類用意